



## かんしつし いろ が 感湿紙ってどうして色が変わるの

### えんか せいしつ 塩化コバルトの性質

わたしたちがよく食べている、のりやせんべいなどは、しけやすい食べ物なので、乾燥剤を使って、湿気を取り除きます。

この乾燥剤として、シリカゲルなどを使っていますが、シリカゲルを乾燥剤にするときは、塩化コバルトを混ぜて使います。

塩化コバルトは、青色をしています。水分を吸うと、赤色に変わるので、乾燥剤のはたらきが、弱くなったかどうか、確かめられます。

### かんしつし すいぶん いろ が せいしつ 感湿紙は、水分で色が変わる性質のもの

塩化コバルトの水溶液を、ろ紙にしみこませてかわかして作ったものを、塩化コバルト紙といい、初めは青色をしています。湿気(水分)にあうと色が変わるので、感湿紙といえます。

乾湿紙が湿気にあうと、どうして色が変わるかということ、感湿紙が、そういう性質をもっているからだ、ということになるのです。

植物の葉の気こうのはたらきを、調べるときに、塩化コバルト紙を使います。塩化コバルト紙を、植物の葉の裏側にはっておくと、青色から赤色に変わります。そのことから、葉の裏側(気こう)から水(水蒸気)が、出ていることが確かめられます。

(監修・青木 国夫)

